

としょかんNEWS 第88号



2014年7月4日
湘北短期大学図書館

図書館はあなたの就職活動を応援します

就職活動、頑張っていますか?「業界情報はどうしたら調べられるの?」「面接対策はどうしたらいいの?」そんなあなたの悩みに、図書館がお応えします!

● まずはキャリア支援コーナーへ!

図書館のキャリア支援コーナーは、オープンスペースの隣にあります。就職活動に役立つ資料が以下の4つの分野に分かれて並んでいます。



(1) 業界を知る

「業界×快速ナビ」シリーズ	金融ビジネス/旅行/人材サービス/健康ビジネス/コンテンツビジネス/IT など
「最新〇〇業界の動向とカラクリがよ〜くわかる」シリーズ	インテリア業界/金融/鉄道/電機/化粧品/小売/通販/コンビニ/通信/ブライダル など

(2) 仕事を知る

「図解でわかる部門の仕事」シリーズ	人事部/お客様相談室/マーケティング部/営業本部/経理部/広報部/生産管理部 など
「なるには Books」シリーズ	建築家/保育士/コンピュータ技術者/幼稚園教師/ホテルマン/フードコーディネーター など
「好きな仕事実現シリーズ」	デザインの仕事/国際関係の仕事/食にかかわる仕事/子どもとふれあう仕事 など

(3) 就職試験対策

実務教育出版「就職の王道 Books」シリーズ	就活始めるブック/高速の一般常識&SPI/就職活動エントリーシートの書き方教室 など
学習研究社「きめる!就職 BOOKS」シリーズ	面接革命!リクルート・メイク術/突破できる自己分析とエントリーシート/即解!一般常識 など

(4) 映像で面接対策

日経 VIDEO「就職活動のすべて」(DVD)	働くって何? /文章でどうプレゼンするか? /対策!グループ面接/対策!個人面接 など
-------------------------	---

● 新聞を読んで、時事問題に強くなろう!

図書館では、以下の新聞を購読しています。

- 一般紙: 朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、神奈川新聞
- 経済紙: 日本経済新聞、日経流通新聞

データベースで全文検索も可能です。

- 日経テレコン 21 <http://t21.nikkei.co.jp/index.html>
- 聞蔵 II ビジュアル <http://database.asahi.com/library2/>



図書館のWebサイトでパスファインダー「就職活動に役立つ!図書館の活用法」もチェックしてみてね!

通勤・通学の足、あるいはビジネスや観光等の移動手段として、鉄道は日々多くの人たちに利用されています。かくいう私も、毎日湘北への通勤に小田急線をはじめとする鉄道各社の路線を乗り継いでいます。小田急線では特急ロマンスカーを愛用しています。

小田急ロマンスカーで通勤する人は私だけではありません。サラリーマンや OL 等の通勤に利用されています。1948 年に東京急行電鉄(東急)より分離独立した小田急電鉄は、同年新宿～小田原ノンストップの「週末特急」の運行を開始し、1950 年には箱根湯本までの乗り入れを果たしました。その後、高度経済成長とともに、ロマンスカーも順調に発展を遂げ、多くの観光客を運びました。

一方で小田急沿線では宅地化が進展し、朝夕の通勤ラッシュが激しさを増していったのです。1967 年には特急券を別途購入することで、定期券でロマンスカーに乗ることができるようになりました。現在では、JR や大手私鉄各社で通勤客向けの特急列車等(これを「通勤ライナー」と呼

びます)が多く運行されていますが、「通勤ライナー」の源流は実は小田急ロマンスカーなのです。ラッシュに巻き込まれずに、快適なシートにゆったりと座って通勤できる「通勤ライナー」は鉄道の魅力向上に貢献しています。今では日本全国で特急列車による通勤・通学が見られるようになりました。

例えば、四国の JR 予讃線では中学生や高校生が特急列車に乗って学校に通っています。実際、私がある平日 16 時頃に予讃線特急に乗車した際、実に多くの中学生・高校生がデッキに立って、談笑していました。また、私の前の座席に座っていた女子生徒が「丸亀⇄伊予西条」の特急定期券を車掌さんに提示しているのを見て、驚きました。同区間の営業キロは 85.8km ですが、特急利用でちょうど 1 時間。十分に通学できる範囲です。「通勤ライナー」が鉄道の可能性を広げていることについては、拙著『「通勤ライナー」はなぜ乗客にも鉄道会社にも得なのか』(東京堂出版、2013 年)で詳しく書かれています。

(後編へ続く)

6 月 21 日、カタルのドーハで開かれた世界遺産委員会で、群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、正式にユネスコの世界文化遺産に決定した。これは富岡製糸場を中心に、近代養蚕農家の原形である「田島弥平旧宅」(伊勢崎市)、蚕の卵の貯蔵所であった「荒船風穴」(下仁田町)、養蚕法を普及させた教育機関である「高山社跡」(藤岡市)の 4 か所をさす。この富岡製糸場は、私の自宅のある高崎市から南西の方角、20 キロほどの富岡市にある。

生糸を生産する製糸業は、ペリーによる開国以来の主要な輸出産業で、北関東・甲信の養蚕地帯を基盤に発達してきた。1872 年(明治 5)にフランスの技術を導入して、官営模範工場として富岡製糸場は建設され、明治後期には清国を抜いて世界最大の生糸輸出国となった。これを教科書的に説明すると、「近代日本をささえた『糸』と『鉄』」というタイトルのもと、「日本の工業化は、まず繊維工業に代表される軽工業、ついで鉄鋼業に代表される重工業という、二つの段階を経て進められました」となる。また「鉄道と生糸の輸出」として製糸場の内部と鉄道の路線図が示され、「生糸は幕末から日本の重要な輸出

品でした。鉄道がしかれる前は、横浜まで河川と海上を通って運ばれていましたが、1884 年に鉄道が高崎まで開通してからは、輸出货量も急増しました」と説明されている(『社会科 中学生の歴史』帝国書院)。つまり、生糸は富国強兵のための外貨獲得源であった。

さて、八高線という鉄道がある。これは高崎と八王子を結び、八王子からは横浜線につながる。すでに幹線としての機能を果たしていた高崎線のバイパスとしての役割を担っていた。私は本学に赴任したころ、本厚木から高崎まで、毎週車で帰った。圏央道から関越道に入ると時間は大幅に短縮されるものの風情がない。八高線沿いの埼玉県道 30 号飯能寄居線、国道 254 号線を走ると、狭山丘陵、そして寄居町あたりまでの関東平野西端部から眺める山村風景は美しい。

なお、私の鉄道についての知見は、原田勝正著『鉄道の語る日本の近代』(そしえて、1977 年)程度であって、上掲の「鉄道博士」大塚良治先生には遠く及ばない。また富岡製糸場の最寄り駅は上信電鉄の上州富岡駅であり、その駅前に黒崎真由美先生のお母様のご実家があると云う。